



平賀幸弘院長

大しているが、山梨でも今後多くの感染者が発生する可能性もある。「先が見えないが長期戦を覚悟して身を引き締めてやっていきたい」

やま なし 医療 最前線

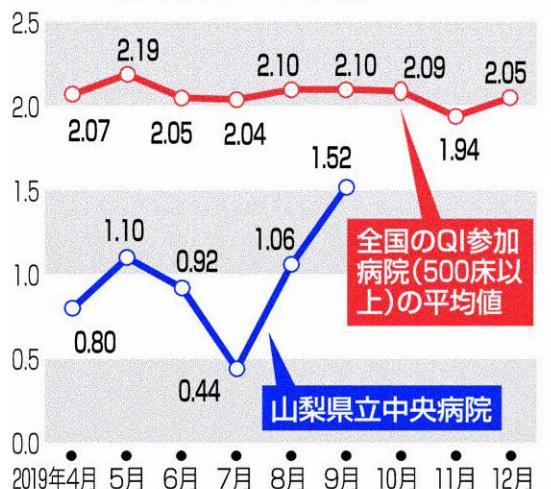
県立中央病院から

198

30日以内の予定外再入院率(%)

※日本病院会主催QIより。

退院患者数に対して、退院後30日以内に
救急医療入院した患者の割合



れる。昨年度から、平賀院長が中心となつて医療の質を評価・公表するためのQI（医療の質）プロジェクト（日本病院会主催）に参加。その目標の一つである「30日以内の予定外再入院率」は、中央病院では退院患者の1%前後と、全国の参加病院（500床以上）の平均値2%前後を下回り、入院中の良質な医療を提供や退院の判断が適切であることが確認された。昨年2月に受けた病院機能評価で

す
境など、高い施設基準を満たす必要があり、取得しているのは全国で43病院（昨年12月時点）のみ。「初心を忘れず、評価を得た医療を実践していく」とリーダーシップを取つていく決意だ。

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るう中、4月1日に就任した平賀幸弘山梨県立中央病院長。「今はクライシスを乗り切らないといけないとき。職員一丸となって、県民の健康、生命、医療を守っていく」と力を込める。東京など都市部を中心に感染が拡

中央病院は空気が室外に漏れないようにするなど感染症対策がとられた病床があり、県内で唯一、1類感染症に対応する第1種感染症指定医療機関になっている。2日前に一度は早朝から会議を開き、時々刻々と変化する情勢に対

応。県や他病院と緊密に連携を取り「重症・中等症の患者さんにいつでも対応できるよう準備している」と話す。一方で、中央病院は総合周産期母子医療センターや高度救命救急センター、県がん診療連携拠点病院などの機能を備え、ゲノム診断ロボット「ダボス」などを活用して取り組む。「県民の命のとりで」の役割を果たしていきたい」と医療の質の改

療や手術支援「インチX-i」最先端の医療病院全体を俯瞰する「最後を守る」は、多くの項目で高評価を得た一方、多職種連携の推進、外来から入院、退院までの途切れのない支援体制については課題も見えた。「今後も客観的な外部評価をもとに、足元から見直していきたい」とこうした取り組みの結果、

新院長、コロナ猛威下で就任 長期戦へ医療の質確保

れる。昨年度から、平賀院長が中心となつて医療の質を評価・公表するためのQI（医療の質）プロジェクト（日本病院会主催）に参加。その目標の一つである「30日以内の予定外再入院率」は、中央病院では退院患者の1%前後と、全国の参加病院（500床以上）の平均値2%前後を下回り、入院中の良質な医療提供や退院の判断が適切であることが確認された。昨年2月に受けた病院機能評価で

境など、高い施設基準を満たす必要があり、取得しているのは全国で43病院（昨年12月時点）のみ。「初心を忘れず、評価を得た医療を実践していく」と、リーダーシップを取つていく決意だ。

は、多くの項目で高評価を得た一方、多職種連携の推進、外来から入院・退院までの途切れのない支援体制については課題も見えた。「今後も客観的な外部評価をもとに、足元から見直していきたい」とこうした取り組みの結果、今年1月、診療報酬に加算が認められる「総合入院体制加算1」を取得。加算を得るには、総合的で専門的な急性期医療の実践、24時間提供でき